

## 共同研究支援報告書

提出日	
氏名	周東 智
所属大学名	北海道大学薬学研究院
職位	教授
研究題目	フッ素化オキシトシンの抹消オキシトシン受容体への効果
内容報告	<p>オキシトシン(OT)は、社会的認識にとって重要な作用を持ち、自閉スペクトラム症等の中核症状である社会性行動異常の有望な治療薬である可能性がある。われわれは、OTのPro7がN-(p-フルオロベンジル)グリシン、(したがって、FBOT)、またはN-(3-ヒドロキシプロピル)グリシン (HPOT) に置き換えた新しくOTアナログを合成した。今回、抹消組織に発現するOT 受容体に対する薬理的検討をおこなった。金沢大学病院産科で帝王切開した子宮の切開部の子宮筋の自発収縮の収縮量(area under curve)はFBOT やHPOT投与により用量依存的に増加し、その増加量はOT や臨床で用いられているcarbetosinのそれより大きかった。この結果から、分娩誘発や弛緩した子宮の収縮を増加し止血することが将来できると判断した。また、臨床で使用されるには幾多の研究が必要であると結論した。</p>
成果(論文発表等)	<p>American Journal of Obstetrics and Gynecologyに投稿、現在再投稿に向け検討中。</p>